平成29年8月20日発行（毎月1回20日発行）

ふるさとへの思いと絆をつなぐ広報誌

8 2017 August No.75

ふるさとだより

久之浜・大久、四倉、平、小名浜、勿来

7年ぶりに戻った夏風景 薄磯で海開き

表紙から Message

7月15日、薄磯海水浴場で震災後初の海開き式が行われました。市内では勿来、四倉に次いで7年ぶりの再開。式典に先立ち地元高校生約100名によるフラが披露され、海開きに花を添えました。写真は平沼ノ内の大平さん・岩下さん一家。「慣れ親しんだ海は最高」と、とてもうれしそうでした。

平

各地区トピックス

久之浜 大久

田之網三嶋神社例大祭

四倉

今年もねぶたが練り歩く

小名浜

防犯球技大会開催！

勿来

勿来海岸で「海フェス」

ふるさとだよりの記事が動画で!!

マークのある記事にスマホやタブレットをかざすと動画が見られます！（見方はP8）

ふるさとの未来へ向けて

おでかけ浜魂（ハマコン）第2弾 第20回「浜魂」in久之浜

地域の活性化を目指す、プレゼン&アイデア出しイベント「浜魂（ハマコン）」。昨年、市と連携し、田人で開催された「おでかけ浜魂」の第2弾が7月26日、浜風きららで開催されました。

この日は「公共交通の再生」「人を育てるアイデア」「さんま加工時に出る骨などの有効活用法」「地元久之浜愛を育むための方策」について、4名の登壇者が発表。その後、小グループに分かれ、アイデアを出し合いました。

最後に登壇者から「最初の一歩」の宣言があり、盛会のうちに終了しました。

4名の登壇者。左から遠藤諭さん、井出拓馬さん、根本重和さん、渡邉敬介さん

地域とともに生きる

久之浜・大久地域づくり協議会 会長 **阿部 忠直さん**

地域の良さを活かしたまちづくりを

私たちが住む久之浜・大久は、海と山の自然に恵まれた、伝統や文化のある地域です。しかし、途絶えてしまった伝統行事もあり、いつか復活させたいと地域のみなさんと話し合いを進めております。

今年、久之浜・大久地域づくり協議会が創立20周年を迎え、節目の年に3代目会長となりました。会員数の減少や高齢化の問題もありますが、継続的にハマエンドウの植栽や保護を行い、新しい事業も模索しながら、地域に貢献していきたいと思います。

「知ってもらうために、伝えることが大切」と震災語り部の活動も行う阿部さん

私たちのふるさとへの願い

南町　阿部範芳さん

久之浜道路愛護会 若松美星さん

久之浜・大久ピックアップ

石川町との海と山の交流

7月23日、石川町との「海と山の交流会」が開かれました。久之浜漁港での漁船の体験乗船や市アンモナイトセンターでの化石の体験発掘が行われました。

船上から海を体感した参加者

天に響く和太鼓の調べ

7月22日、久之浜漁港で長野県岡谷市の御諏訪太鼓保存会、御諏訪太鼓連合会と大久町の和太鼓疾風（はやて）の3団体合同で演奏が行われ、勇壮な音が響き渡りました。

3団体合同で行われた鎮魂演奏

夏到来を告げる例大祭

7月16日、田之網三嶋神社の例大祭が行われました。家々からの「水祝儀」を受けてびしょ濡れになりながら、子どもたちの先導で神輿が地区内を練り歩きました。

沿道の家々から受ける水祝儀

ふるさとの未来へ向けて

まちづくり懇談会で意見交換

7月11日、平成29年度四倉地区まちづくり懇談会が、四倉商工会館で開かれ、約150名が参加しました。

「賑わいとふれあい、笑顔とやさしさが交差する『輝く未来に向けて復興する四倉』をめざして」をテーマに、区長会、商工会ほか、四倉地区の各団体の代表者と、市長と関係部長とが懇談。市道上仁井田・戸田線の道路拡幅、いわき四倉中核工業団地へのアクセス道路の整備や企業誘致、老朽化した小・中学校の改築や統廃合などについて意見交換しました。

市道の拡幅など四倉のまちづくりについて提案する代表者

地域とともに生きる

四倉町商工会青年部
部長
押田 有二さん

若い力と行動力で四倉に恩返しを

四倉町商工会青年部は、来年で50周年です。ここ数年の主な活動としては、焼きソースカツ丼やサンマの蒲焼重などの新しい名物づくりに取り組みました。また、昨年に引き続き「四倉ねぶたといわきおどりの夕べ」に合わせ、児童向けのねぶたづくり体験教室を開いたことは、子どもたちが地域の伝統行事に関わるきっかけづくりになりました。今後も若い力と行動力で、従来の取り組みだけでなく、新しいことにも挑戦して四倉に恩返しをしていきたいと思います。

青年部のメンバーと、ねぶた制作に取り組む押田さん（写真左）

私たちのふるさとへの願い

生そば 松の月　佐藤 光さん

四倉第一幼稚園 教職員のみなさん

四倉ピックアップ

約1000名が「ドンワッセ!」

7月29日、「四倉ねぶたといわきおどりの夕べ」が行われ、14チーム約1,000名の踊り手が参加したほか、8基のねぶたとねぷたが新町から四ツ倉駅前まで巡行しました。

約2kmを踊り流した参加者

夏休み子どもまつり

7月25日、四倉公民館で夏休み子どもまつりが開かれ、来場者はミニ縁日で金魚すくいやヨーヨー釣りを楽しみ、軽食コーナーでそうめんやスイカを味わいました。

金魚すくいを楽しむ子どもたち

清掃活動で交流深める

7月6日、四倉中の1年1組の生徒25名と、四倉高の敷地にある県立富岡支援学校中学部・高等部の生徒10名が、四倉海水浴場の駐車場周辺で清掃活動をしました。

協力してごみ拾いをした生徒たち

ふるさとの未来へ向けて

薄磯で宅地完成式

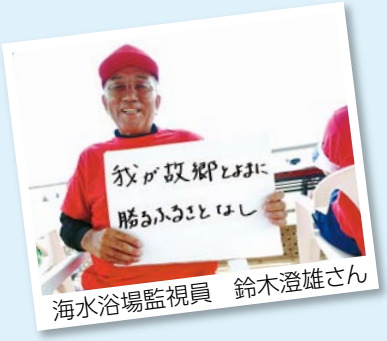
宅地引渡書を受け取る鈴木さん

7月15日、薄磯地区の海岸沿いに新設された薄磯交流多目的広場で、いわき都市計画事業、薄磯震災復興土地区画整理事業の宅地完成式が、地元地権者や関係者約50名が参加して行われました。

式では、関係者らによるくす玉開披が行われ、地権者代表の鈴木永雄さんに宅地引渡書が手渡されました。

薄磯地区の区画整理事業では土地のかさ上げなどを行い、185区画、宅地計11・8ヘクタールが整備されました。

私たちのふるさとへの願い



海水浴場監視員　鈴木澄雄さん

豊間　渡辺さん一家

地域とともに生きる

海まち・とよまパークフェス実行委員長
室谷 和範さん

地域への感謝イベントで地域をアピール

生まれは三和町ですが、結婚を機に薄磯に転居し、今年で25年になりました。震災後、住民が流出していくなかで、復興協議委員会や区の役員などを務めながら、何ができるかを考えてきました。今年、薄磯で海開きを行うことになり、海まち・とよま市民会議の承認を得て、「海まち・とよまパークフェス」を企画。仲間たちの協力と、地元企業からの多大なる支援のおかげで、成功裏に終えることができました。これを機に、一人でも多くの方が薄磯に戻って欲しいですね。

スタッフ・ボランティアの協力もあり、成功したパークフェス

平ピックアップ

第2回田んぼの学校

7月25日、今回で2回目になる豊間区の「田んぼの学校」が行われ、参加した11名の児童のほか、とーちゃんの会、保護者、復興協議会メンバーが草取りをしました。

とーちゃんの会が優しくサポート

まちづくりミーティング

7月16日、豊間復興協議会事務所で、豊間区が区画整理後に整備を検討している「中央集会所」について、子育て世代や市内のNPOなどと意見交換を行いました。

活発に意見交換する参加者たち

海難事故ゼロへ

7月4日、今年から7年ぶりに再開される薄磯海水浴場で日本ライフセービング協会によるレスキューボードやAEDの使用法などの講習が行われました。

レスキューボードの講習

ふるさとの未来へ向けて

江名中学校 防災学習に取り組む

「地域と共に創る放射線・防災教育推進事業」の実践協力校に、市内で唯一指定された江名中学校。

6月29日に「第1回防災学習会」が行われ、市危機管理課職員を講師に、防災の意味や震災における江名・永崎地区の津波被害の現状、津波ハザードマップの見方を学びました。

また、7月4日には第2回が行われ、江名分遣所長による原子力災害時の行動についての講話や、熊本大学生命資源研究・支援センター職員によるスクリーニング検査について学びました。

放射線測定器でスクリーニング検査を体験する生徒たち

地域とともに生きる

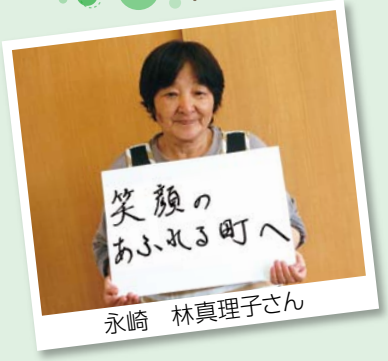
下神白区
代表区長（第一区長）
田中 清隆さん

下神白地区の復興と協調を目指して

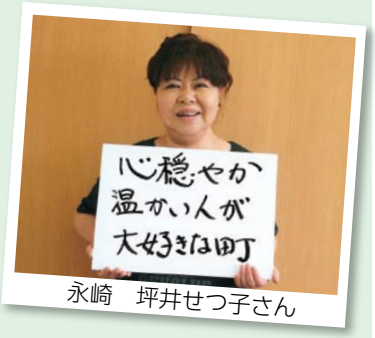
下神白第一区長になって8年になります。震災直後は、給水や支援物資の配布、道路の除染作業など、一刻も早い地区の復興に向けて取り組みました。その年の11月には、海星高と小名浜高、地域住民が協力し合い「地域復興祭」を開催し、復興への大きな一歩となりました。また、平成25年5月には海星高生の協力で、約40年ぶりに「担ぎ神輿」を復活させました。これからも、地域住民はもちろん、復興公営住宅にお住まいの方々と地域交流会などを通じてコミュニケーションを図り、地域に貢献していきたいです。

今年5月24日に永崎集会所で行われた「地域交流会」で挨拶をする田中さん

私たちのふるさとへの願い



永崎　林真理子さん



永崎　坪井せつ子さん

小名浜ピックアップ

みんなで力を合わせて

7月16日、第37回防犯球技大会が、江名小校庭で行われました。市内の小学校から6チームが参加し、フットベースボールでの熱戦が繰り広げられました。

懸命に守る江名小選手たち

日頃の防災について考える

7月7日、市公営住宅永崎団地集会所で、江名分遣所長による防災講話が行われたほか、消火訓練やインターホンの非常ボタンの使用方法について学びました。

水消火器で消火訓練をする参加者

タイル作りと彩色に挑戦

7月4日、小名浜二小の5年生が、陶芸家の秤屋苑子さんの指導で、陶板タイル作りを行いました。自分の名前や絵が描かれたタイルは、11日に彩色が行われました。

秤屋さんの指導で制作する児童

地域とともに生きる

なこそ夏まつり
実行委員長
鈴木 修一郎さん

まつりを通して感じる、地域の繋がり

震災の年は中止となった、なこそ夏まつり。翌年から再開しましたが、その後は会場付近で河川堤防や児童施設の整備が行われ、周辺の変化に対応しながら、安全面に配慮して開催を続けてきました。現在は相双地区のみなさんやサンバパレードの披露も加わり、一層の賑わいと華やかさを見せています。

このまつりは、普段それぞれ活動している方々が、ひとつになって作り上げています。そんな「つながり」を大切に、みんなが企画や清掃に協力することで、良さや楽しさが伝わればと思います。

7月22日に開催された同まつりで、いわきおどりのスタート宣言をする鈴木実行委員長（写真中央／P7に関連記事）

ふるさとの未来へ向けて

新たな憩いの場が完成「コミュニティ交流広場」

近隣住民とのワークショップを経て整備された「コミュニティ交流広場」

市民と双葉郡などからの避難者とが交流する場として、鮫川河川敷公園内に「コミュニティ交流広場」が整備されました。

4コース（36ホール）が設けられた既存のパークゴルフ場に、1コース（9ホール）を増設。今後は、芝生の養生が進み次第、供用開始となります。

また、既存駐車場の再整備とともに、合わせて182台分の駐車場が新たに整備されたほか、東屋（あずまや）やベンチも設置され、7月から利用可能となっています。

私たちのふるさとへの願い

なこそ復興プロジェクト 塚原麻美さん

吉田家具店 吉田雄一郎さん

勿来ピックアップ

自画像で伝える今の自分

7月17日、なこその希望プロジェクト「自画像ワークショップ」を勿来市民会館で実施。作品は岩間町防災緑地に建設予定のタイムカプセルに収められます。

好きな画材を使って自画像を制作

短冊に願いを込めて…

7月9日、第8回植田七夕まつりが、ホテルアクセスおよび植田第二公園で行われました。屋台や縁日コーナーなどが設けられ、多くの子どもたちで賑わいました。

笹竹に短冊を飾り付ける子どもたち

海を知り、海と触れ合う

7月8・9日、「海フェス2017 in Nakoso Beach」の前夜祭とライフセービング体験が勿来海岸で開催。参加者は安全に楽しく海で遊ぶための心得を学びました。

ニッパーボードを体験する児童

ふるさとダイアリー

四　倉　幼稚園と保育所で夏まつり

7月8日、四倉第一幼稚園で夏まつりが開かれ、園児たちは園庭で神輿を担いだ後、ダンボール迷路や輪投げ、くじ引きなどで遊びました。

また7月14日には、四倉保育所の夏まつりも行われ、園児たちが盆踊りをしたり、駄菓子やかき氷などの出店で買い物を楽しんだりしました。

夏まつりを楽しむ親子連れ

元気に神輿を担ぐ園児たち

平　初めてのパークフェス

7月15日、薄磯交流多目的広場で海まち・とよま市民会議主催の「海まち・とよまパークフェス」が開催されました。飲食、雑貨などのショップが軒を連ね、イベントブースではダンスや市内アーティストのライブのほか、沼ノ内の水掛け祭りも再現。地域を巡る周遊バスツアーも大盛況でした。

地域伝統の水掛け祭りを再現

会場内にフラおじさんも登場

小名浜　願いを込めて七夕飾り

7月15日、江名区集会所などに飾るための七夕飾り作りが、江名女性の会により同地区の公民館で行われました。

七夕飾りを作るみなさん

賑わう小名浜の夏

バナナボートを楽しむ参加者

7月29・30日、アクアマリンパークでおなはま海遊祭が開催されました。キッズボートやバナナボートの乗船体験などが行われ、大勢の来場者で賑わいました。

勿　来　最高潮！勿来の夏

子どもたちも参加し、オープニングを飾ったサンバパレード

7月22日、なこそ夏まつりが開催されました。植田パティオ通りでは「G.R.E.S.仲見世バルバロス」のみなさんが、華麗なサンバパレードを披露。その後、第35回いわきおどり勿来大会と、第21回なこそ鮫川花火大会が行われ、賑わいを見せました。

趣向を凝らしたいわきおどり

大輪の花が咲いた夏の夜空

久之浜・大久　まちのオアシス再オープン

7月15日、浜風商店街で営業していた駄菓子屋「あかもの屋」が北町に再オープン。駄菓子を眺めながら、子どもの頃を懐かしむ親子の姿が見られました。

親子3代揃って一緒にお買い物

久之浜保育所夏祭り

一番人気のスマートボールすくい

7月21日、久之浜保育所で夏祭りが行われました。近所の子どもたちも訪れ、一緒に盆踊りをしたり、屋台でスマートボールすくいをしたりして楽しみました。

いわき市ふるさとだより
No.75
平成29年8月20日発行
●発行:いわき市 ●編集:有限会社 いまぁじゅ ふるさとだより編集室
●編集室:〒973-8411 福島県いわき市小島町3丁目3-3 プリンセス・アイ1F
Tel&Fax:0246-26-5157
Mail:furusato@asally.co.jp http://www.furusatodayori.com

お知らせ

空き家の実態調査　実施について

市では、空き家の適正な維持管理や利活用に向けた各種対策を講じるため、今年8月から平成31年度までの3ヵ年にわたり、実態調査を実施します。

調査は、市街化区域などの家屋が密集する地区を優先して実施する予定。市から委託された調査員が、近隣にお住まいの方々に、空き家と思われる住宅や店舗などについての情報を伺うことがありますので、ご協力をお願いします。

◆対象

市内全域の空き家と思われる住宅や店舗など

◆内容

外観調査や写真撮影、所有者調査

※居住や使用の有無を確認するため、玄関先や呼び鈴の位置まで調査員が立ち入ることがあります。

※調査員は市発行の証明書を携帯しており、金銭の要求や物品の販売を行うことは一切ありません。

また7月22日には、LATOV6階の産業創造館で、空き家と住まいの相談会が行われました。相談会については、今後も定期的に開催される予定です。

【問い合わせ】
市住まい政策課　☎0246−22−1178

ふるさと伝言板

豊間獅子祭典

【宵祭り】
日時／8月26日(土) 19:00
【本祭り】
日時／8月27日(日) 10:00
場所／豊間諏訪神社境内

江名獅子祭

【宵祭り】
日時／8月26日(土) 19:00
場所／江名諏訪神社・江名魚市場
【本祭り】
日時／8月27日(日) 8:00
場所／江名・折戸地区内

住まいと暮らしの再建相談会

日時／9月24日(日)
①10:00
②13:00
③15:00 (各90分程度)
場所／市文化センター
定員／9組(各時間3組)

◆お申し込みは開催日の3日前まで。

【問い合わせ】市ふるさと再生課
☎0246-22-7437

ふるさとPICK UP

復興支援フォーラムの開催

7月19日、特定非営利活動法人みんぷくによる復興支援フォーラムが、いわき産業創造館で開かれました。

第1部では、薄磯団地の大河内義男前自治会長やみんぷく担当者による復興・災害公営住宅における自治会の活動報告。第2部では、本市、富岡・大熊・双葉・浪江各町の社会福祉協議会職員を交えてのトークセッションが行われました。発言者からは、各団地における住民の交流活動の報告のほか、入居者の連携強化に向けた方策や、高齢の方に対する配慮などの課題についても話し合われました。

大河内さんによる薄磯団地の自治会活動報告

さまざまな意見や課題が出されたトークセッション

プチ講座 なるほど!いわきの歴史コーナー Part.21

県内で2番目に古い番所(ばんどころ)灯台

江戸時代中期、幕府は外国船を監視するために、沿岸の諸藩に遠見番所を設置させました。磐城平藩も、現在の三崎公園がある高台に三崎遠見番所を設けました。この設備は、設置した内藤家が延岡に移った後に廃止されましたが、昭和3年5月、その跡地に旧小名浜町が「綱取埼灯竿(とうかん)」を建てました。26年に鉄筋コンクリート造りの「綱取灯台」に建て替えられ、昭和30年から現在の名称になりました。

県内の灯台では、平薄磯にある塩屋埼灯台の次に古く、海面からの高さは35m、地上からの高さは10m。震災で生じた亀裂の復旧工事の間も光を灯し続けて、沖合いを行き来する漁船などを見守っています。

太平洋を見下ろす岬に建ち、航行の安全を守る番所灯台

動画の見方

①アプリをダウンロード

Download on the App Store
GET IT ON Google Play

②アプリを立ち上げ、パンダマークのある写真にスマホをかざす。
③自動的にスキャンが始まる。
④認識されたら、動画を再生。

※画像に光が反射しないようにスキャンしてください!